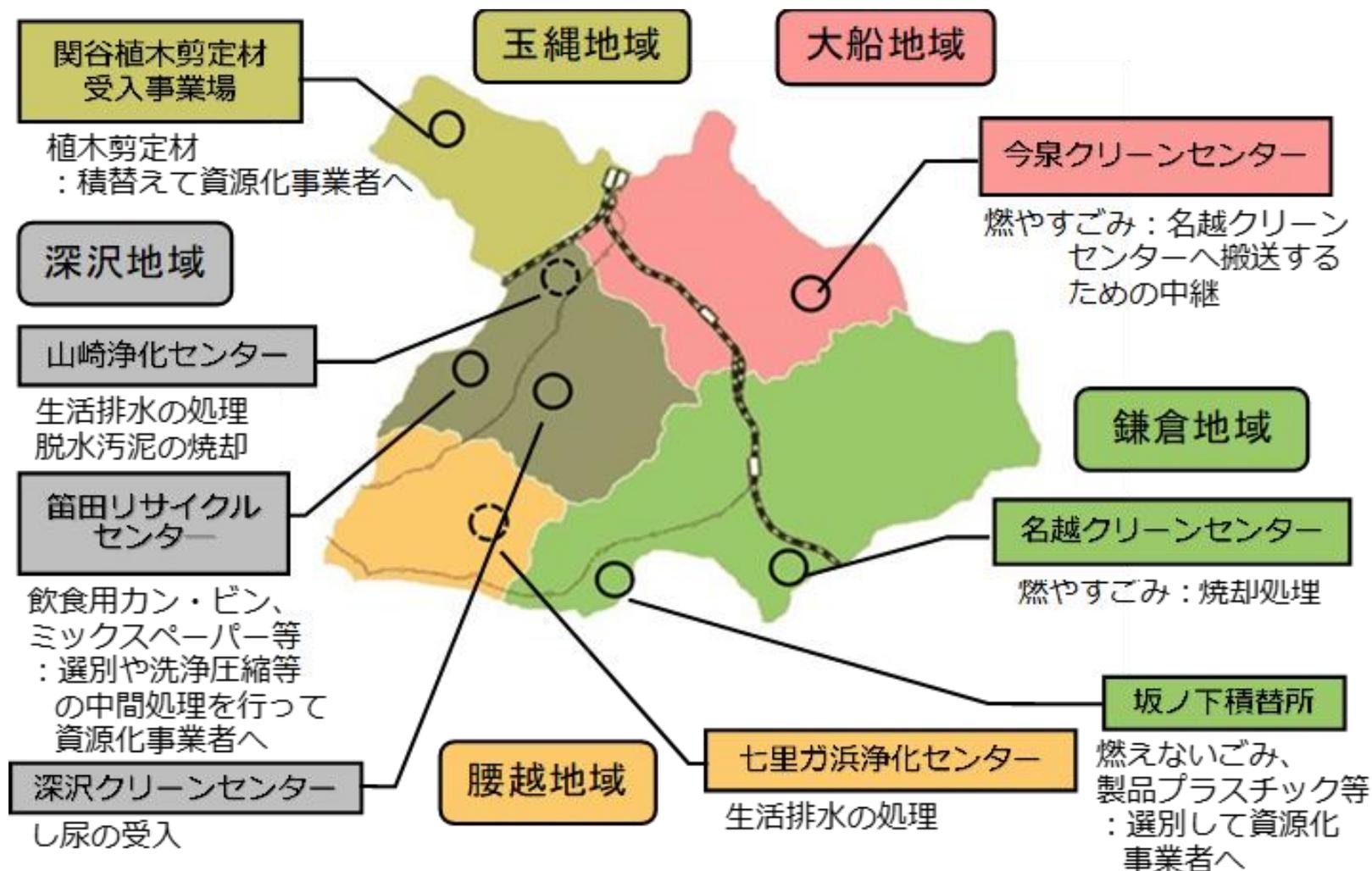


本市のごみ処理施策について

鎌倉市名越中継施設整備発注支援等業務委託

既存ごみ処理施設



鎌倉市のごみの総排出量・可燃ごみの総量

■直近5か年の実績値

	H28	H29	H30	R1	R2
ごみ総排出量	65,408t	59,746t	58,623t	58,123t	60,471t
可燃ごみの総量 (焼却量)	36,384t	30,852t	29,992t	29,993t	29,994t

- 本市では、環境負荷の少ない循環型社会の構築や焼却施設の老朽化、最終処分場問題等を背景に、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現をめざし、ごみの減量・資源化に積極的に取り組んでいる。
- 特に焼却量においては、市民や事業者の協力を得て、平成30年度(2018年度)に3万トンを下回り、平成2年度(1990年度)の72,621tから約60%減となっている。
- 分別品目の拡大等により、資源化率(リサイクル率)は人口10万人以上の市町村の中で全国トップレベルの水準で推移している。
- 「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現や安定的なごみ処理体制の構築に向け、引き続き、新たな品目の資源化も含め、ごみの減量・資源化方策を進めていく。

市施策の方向性

H31.3『将来のごみ処理体制についての方針』

- 新焼却施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイスト」をめざして、ごみの減量・資源化を実施する。
- 家庭系燃やすごみの約半分を占める生ごみと紙おむつの資源化、事業系ごみの資源化により、令和2年度から令和11年度までの10年間で、年間3万トンある燃やすごみを1万トンまで削減。

R2.8『鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画』

- R6末の名越クリーンセンター稼働停止後は、逗子市の既存焼却施設において共同処理を実施。
- 逗子市の既存焼却施設稼働停止後は、鎌倉市に整備した中継施設に2市1町のごみを受け入れ、さらなる広域連携、民間事業者の資源化施設に運搬を想定。

R11想定

可燃ごみ合計	28,980t	削減量合計	18,982t	焼却量合計	9,998t
家庭系ごみ	18,915t	家庭系ごみ計	8,917t	家庭系ごみ	9,998t
事業系ごみ	10,065t	・生ごみ	6,464t	事業系ごみ	0t
		・紙おむつ	1,507t		
		・分別徹底	946t		
		事業系ごみ	10,065t		
		・生ごみ	2,253t		
		・紙おむつ	762t		
		・その他	7,050t		

- **2市1町ごみ処理広域化実施計画の実現に向け、名越クリーンセンター用地における中継施設整備に向けて検討・協議を進める。**

事業スケジュール(想定)

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
名越CC (焼却処理)	→							
中継施設				← 解体・整備 →		稼働 →		
今泉CC (中継機能)	→			稼働延長 →				
生ごみ資源化								稼働 →
紙おむつ資源化				資源化実施 →				
事業系ごみ資源化	資源化実施 →							

- 令和6年度末に名越クリーンセンターの焼却停止、令和7・8年度の2か年で当該センターの解体及び中継施設の整備、令和9年度から中継施設の稼働を予定している。